

塾の名称は「学力向上 up 宣言 family hot 塾」。経営しているのは山下三郎さん（65）。

同塾に通塾しているのは健常者の小、中学生のほか、支援学級に通学する小学 6 年生で、ダウン症の女兒と知的障害を抱える男児の 2 人、自閉症の中学 3 年生と知的障害の中学 1 年生の男子生徒 2 人、養護学校高等部などに通学する自閉症の高校 1 年生ら男子生徒 2 人の計 6 人。

6 人は越生町や小川町、毛呂山町など近隣に居住。平日の夕方に通ってくる中 3 男子を除く 5 人は土、日曜日の午前 10 時から午後 3 時ごろまで通塾している。指導は読み、書き、そろばんが中心だが、中 3 男子は高校受験のための勉強に励んでいるという。

山下さんは福島県出身。大学卒業後、県教委に入り、1973 年に小学校教諭に就任。富士見、鶴ヶ島市などの小学校で教諭を務め、2007 年に鶴ヶ島市立栄小学校の教頭を最後に定年退職した。

在職中から学校の授業に付いていけない生徒たちがいることに不安を覚えていたことから、山下さんは退職後、東秩父村で、健常者の小、中学生を対象にした補習目的の学習塾を開校。1 週間に数回だったために成果が挙がらず、3 年後に同塾を閉校し、地元の越生町に塾を開いていた。

そんな頃、毛呂山町のファストフード店でたまたま知り合った自閉症の中学生を持つ母親と会話したのが、障害者を対象にした学習塾を立ち上げたきっかけだった。

母親から「息子は支援学級に通学しているが、学校で健常者と同じような授業を受けさせてもらえない」と相談を持ち掛けられた。また、別の障害の子どもを持つ親から「子どもが学習塾の入塾を断られた」などと悩みを打ち明けられたこともあった。

「健常者の子どもを教える場所はたくさんある。しかし、障害者に勉強などを教える場所はほとんどない。これまでいろいろな人に世話になり、最後に社会に役立つように、障害者に生きるための基本を教えよう」。一念発起した山下さんは今年 3 月、同塾を開校した。

山下さんは「障害のある子どもと親御さんが喜んでもらえればいいんです。お金の問題ではなく、親御さんの『何とかしたい』という強い気持ちがあるかどうか。周囲には指導を助けてくれる元教諭がたくさんいますが、できれば塾の支援者を探しています」と話している。

問い合わせは、山下さん（Tel 090-8648-4083）へ。
（埼玉新聞・さいたま 2012 年 6 月 12 日）